

# 経営学史学会通信

第1号 1994年9月

## 日本の経営学を築いた人たち

理事長 三戸 公

まずは、経営学史学会年報の創刊号が、編集委員の方々の学会創成期の情熱とエネルギーの結晶として出版されたことを慶びたいと思います。経営学史学会編『経営学の位相』（1994年5月20日、文眞堂刊）は、昨年5月に明治大学で举行された創立大会の記念講演・報告を「Ⅰ. 課題」として括り、次に「Ⅱ. 人と業績」と題して学会の長老の先生方をお願いした玉稿を収録し、さらに「Ⅲ. 資料」として学会創設に到るまでの設立準備委員会の記録を収めたもので、充実した内容とともに、本学会に相応しい装丁で上梓されました。会員各位には、本誌を存分に活用され、併せて本誌の広報にご協力願います。

次に、第2回大会が滋賀大学において、去る5月21日・22日の両日、吉田 修大会委員長の行き届いたご準備のもとで、盛会裡にもつことができました。統一論題「経営学の巨人」として取り上げられた、ニックリッシュ、バーナード、マルクスと経営学、は各セッションの工夫のもとに盛り上がりを見せましたが、私にとっては、とりわけニックリッシュ——ドイツ経営学——から大いに学びました。そして最後まで熱心に参加して下さった会員とともに、清々しい気持ちで美しい彦根城内の会場を後にすることができたことを、心からあり難く感謝しています。

さて、明年5月中京大学で開催予定の第3回大会の企画、および年報第2輯の編集企画を兼ね、7月11日中京大学に、吉田和夫、吉田 修、佐々木恒男、相馬志都夫、片岡信之、小笠原英司、の各委員に参集いただき、原案を審議し作成しました。これを理事会において回議了承しましたので、以下、概要をお知らせします。

年報第2輯は「経営学の巨人」と題し、創刊号と同じ体裁で出版する。内容は第1に第2回大会の統一論題および自由論題、第2に統一論題の3巨人に関する書誌（書物のみ）、第3に創刊号と同様「人と業績」を長老の先生数名に寄稿願う。

第3回大会は、第2回大会同様、自由論題1セッション、統一論題3セッションの構成で、統一テーマは「日本の経営学を築いた人たち」とする。このテーマは本学会にとって避けて通ることのできない課題であり、また、第2回大会の「経営学の巨人」とともに、継続的に議論しなければならない基本的テーマであります。

さてそこで、今回取り上げるべき人の選考ですが、大学別とか、学派別とか、種々検討の末、わが国経営学の今日を築いた人たちの活躍した時代を3期にわけ、以下のように各期およそ3名の先学（物故者）を選考させていただき、それぞれを対象とする討論者を1名ずつ置くという案に固まりました。討論者については、目下検討中で、また今回、対象として選考されるべき人が選考されなかったことについて、いろいろとご意見もあるでしょうが、継続のテーマですので、ご了解頂きたいと思えます。

第Ⅰ期：上田貞次郎・増地庸治郎、平井泰太郎、馬場敬治

第Ⅱ期：古林喜楽、馬場克三、山城 章

第Ⅲ期：高宮 晋、市原季一、占部都美

以上の人たちを対象にすると言っても、単なる人物論としてではなく、その人の経営学説の前後左右、そして日本の経営学の過去・現在・未来にいかなる位置を占め、いかなる意味を持つかを論じていただきたいという趣旨であります。

想えば、これは日本の経営学界において、そのかなり長い歴史の中においても曾て無かった試みであります。その日、最適の討論者と参集される会員諸氏によって、日本の経営学を築いた諸先達が甦る熱い日となるであります。その日が今から待たれます。

数の為ではなく、日本の経営学をこれから築いて行かれる若き学徒がこの学会に参集されることを願っております。また、そのような学会でありたいと念じております。

---

## 経営学史学会第2回大会をふりかえって

経営学史学会第2回大会が、去る5月21日・22日、滋賀大学(彦根市)で開催された。大会実行委員長の吉田 修教授のご尽力を中心に周到な準備と運営のもと、会員総数の過半数を越える130名余の参加者をむかえて執り行われた。

初日21日の午前中は、五つの自由論題の研究成果が発表され、活発な討論がなされた。午後には統一論題の第1セッション「マルクスと日本経営学」が、翌22日には統一論題の残る「ニックリッシュ」、「パーナード」が午前と午後にならってそれぞれ3名の報告と討論がなされた。この企画は、おそらく世界の経営学史研究において嚆矢にしてわが国独自のものであろう。各セッションの報告と質疑・応答は、まことに熱気あふれるものであり、本学会の気概と水準を示すに十分のものであった。

開催校である滋賀大学は、これまで経営学史分野の研究者および教員を多数輩出した経営学史研究のメッカであり、ここで本大会を盛会裡に開催しえたことは、まことに意義深いことであった。(幹事 河野大機)

---

## 1994年度会員総会議事要録

1994年度会員総会が、第2回大会二日目の5月22日13時より開催され、以下のように理事会案が報告・提案され、了承された。

(1)1993年度活動報告の件。年報第1輯が発刊され、会員へ配付し、残部を市販することが了承された。(別記参照)

(2)1993年度収支決算報告の件。特に、設立準備委員会の費用が算入されたこと、終身会費の分を特別会計として通常会計から分離して処理することが承認された。(別記参照)

(3)1994年度活動計画の件。年報第2輯の発行および第3回大会の成功に向けて努力する旨が了承された。

(4)1994年度収支予算の件。(別記参照)

(5)理事会で承認された新入会員23名(普通会員12名、院生会員11名)および退会者4名が報告され、了承された。これにより現会員数281名となった。特に理事長より、会員の拡大、若手研究者の入会促進の協力が要請された。

(6)山本安次郎会員を本学会顧問とすることが承認された。

(7)第3回大会を中京大学で開催することが承認され、実行要領を理事会および開催校に一任することが了承された。

以上

## 年報第1輯『経営学の位相』刊行さる

当学会の年報の創刊号が、編集委員会の努力により、見事な出来栄で完成し刊行されました。会員の皆さんには第2回大会当日に配付しました（欠席者にはこのたび郵送しました）。内容は三部から成り、第I部は創立大会における山本安次郎、三戸 公両教授の記念講演と、北野、加藤、永田、稲村、小林という錚々たるメンバーによる5本の大会報告によって構成され、本書の主要を占めるものです。第II部は、70歳以上の長老の先生方にながの経営学史に関わるさまざまな話題を述懐していただくという、本学会ならではの企画で、高田 馨、雲嶋良雄、海道 進、斎藤隆夫、大島國雄の諸先生から玉稿を寄せて戴きました。第III部は、市販という点で若干異論もありましたが、あくまでも学会機関誌ということで、学会創立に到る準備過程を資料として掲載しました。学会史それ自体が経営学史の重要な要素と考えたからです。

こうして190ページの堂々たる創刊号が完成したのですが、出版元の文眞堂には、価格の面で大変なご協力を頂戴しました。つまり薄利低価で、できるだけ多数の学生、研究者、一般読者に講読していただくということです。会員諸氏におかれては、ゼミ等でお使いいただき、図書館に購入いただくことをお願いします。

なお、その際、文眞堂へ直接ご注文いただければ、定価（¥2,060）の2割引きで頒布されます。これも文眞堂の協力によるものです。

## 1994年度年会費のお願い

1994年度の会費を下記の要領でお支払い下さい。

94年度の予算を別記のように組みましたが、肝心は皆さんの会費納入です。93年度は諸般の事情で赤字決算でした。健全な学会財政を確立するために、会員諸氏のご協力をお願い致します。

### 記

#### 1. 会費

- ・普通会費 6千円
- ・終身会費（本年4月1日現在）
  - 60歳台 3万円（以後、普通会費免除）
  - 70歳以上 2万円（同上）
- ・院生会費 3千円

#### 2. 方法

- ・郵便振替：本年5月より振替用紙と口座番号が変わりましたが、昨年のものも使用できます。  
 新口座番号：00120-5-715248 経営学史学会事務局  
 旧口座番号：東京 2-715248 経営学史学会事務局
- ・領収書は、振替払込書の払込票をもって代えさせていただきます。払込票は大切に保存願います。特に事務局発行の領収書を必要の際は、申し入れ下さい。
- ・93年度分を未納の方は、分納でも結構ですが、できれば一括納入頂ければあり難く存じます。また、今回終身会費を納入される方で、93年度分未納の場合は93年度分の普通会費を納入頂きますのでご了解願います。

## 1993年度収支決算

自：1993年4月1日(1)

至：1994年3月31日

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
普通会員会費 (150名)	900,000.	第2回大会費	100,000.
終身会費特別会計より(2)	81,000.	郵便・通信費	185,233.
賛助会員会費 (1口)	20,000.	印刷費・名簿作成費	181,768.
創立大会祝儀金	80,000.	消耗品費 (主として封筒代)	112,158.
寄付(3)	100,000.	会議費	69,772.
支出超過繰越金	156,504.	設立準備委員会交通費	140,000.
(以下余白)		事務局費	16,085.
		年報第1号買上げ引当金(4)	463,500.
		同 郵送費引当金(5)	45,500.
		振替料	6,390.
		雑費	17,098.
合計	1,337,504.	合計	1,337,504.

注(1) 設立準備委員会の期間 (1992年9月～1993年3月)を含む。

(2) 終身会費収支を特別会計とする。

(3) 北村健之助氏による篤志。

(4) 定価¥2,060の25%割引で300部買上げ。

(5) 会員数の5割×¥350。

1993年度終身会費特別会計

(単位：円)

収入		支出	
60歳以上(15名)	450,000.	経常会計へ(1)	45,000.
70歳以上(9名)	180,000.	同 (2)	36,000.
———	———	繰越金	549,000.
合計	630,000.	合計	630,000.

注(1) 60歳以上終身会費の償却期間は10年とし、その期間、各年経常会計に組み入れる。

(2) 70歳以上終身会費の償却期間は5年とし、その期間、各年経常会計に組み入れる。

## 1994年度収支予算

自：1994年4月1日  
至：1995年3月31日

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
過年度会費(1)	420,000.	大会費	100,000.
本年度会費(2)	1,200,000.	年報買上げ費(4)	463,500.
終身会費特別会計より(3)	131,000.	年報発送費	45,500.
賛助会費	60,000.	名簿作成費引当金	50,000.
雑収	2,000.	郵便・通信費	180,000.
(以下余白)		印刷費	50,000.
		会議費	100,000.
		事務局費	50,000.
		予備費(5)	300,000.
		振替料	8,000.
		雑費	20,000.
		前年度支出超過繰越金	156,504.
		次年度繰越金	289,496.
合計	1,813,000.	合計	1,813,000.

注(1) 納入率 80% (70名) として計算。

(2) 納入率 75% (200名) として計算。

(3) 特別会計予算 (下記)

(4) 第1号と同額で計上。

(5) 主として年報第2輯の買上げ費・発送費の増分に対して。

### 1994年度終身会費特別会計

(単位：円)

収入		支出	
93年度繰越金	549,000.	93年度分の振替(1)	81,000.
60歳以上(10名)	300,000.	本年度分振替(2)	50,000.
70歳以上(5名)	100,000.	繰越金	818,000.
合計	949,000.	合計	949,000.

注(1) 93年度決算案における償却計算にしたがう。

(2) 60歳終身30,000+70歳終身20,000。

## 新入会員の紹介

### ◎普通会员（12名）

篠原三郎（所属 日本福祉大学）  
住所

瀬見 博（所属 関西学院大学）  
住所

曾 浩（所属 千葉商科大学）  
住所

田口敏行（所属 静岡学園短期大学）  
住所

貫 隆夫（所属 武蔵大学）  
住所

浜野譲治（所属 呉女子短期大学）  
住所

福永文美夫（所属 久留米大学）  
住所

牧浦健二（所属 近畿大学）  
住所

増田勝己（所属 京都大学）  
住所

三戸 浩（所属 横浜国立大学）  
住所

村山元英（所属 千葉大学）  
住所

森本隆男（所属 関西学院大学）

### ◎院生会員（11名）

岡山達夫（所属 龍谷大学大学院）  
住所

片岡 進（所属 立命館大学大学院経営学研究科博士後期課程）  
住所

木村貞子（所属 大阪学院大学大学院商学研究科博士課程）  
住所

塩見芳則（所属 関西大学大学院博士後期課程）  
住所

志村光太郎 (所属 明治大学大学院経営学研究科博士前期課程)  
住所

大黒雅之 (所属 愛知学院大学大学院)  
住所

谷口健二 (所属 愛知学院大学大学院)  
住所

平井勝弘 (所属 関西大学大学院博士後期課程)  
住所

前田東岐 (所属 立命館大学大学院)  
住所

道坂 剛 (所属 龍谷大学大学院)  
住所

明 泰淑 (所属 龍谷大学大学院)  
住所

◎退会者 宮坂正治、降旗武彦、馬頭忠治、寺中良二

---

会員の住所変更と訂正  
それぞれ変更・訂正後の記載です。(既報分はのぞく)

阿辻茂夫 (所属 関西大学)

飯野春樹 (所属 大阪学院大学)  
電話

今村寛治

大月博司

大平義隆

川端久夫 (所属 熊本学園大学)

児玉敏一

小林敏男

今野 登

佐久間信夫

中村共一 (所属 岐阜経済大学)

西川耕平

百田義治

松永美弘

三井 泉 (所属 帝塚山大学)

横沢利昌 (所属 亜細亜大学経営学部)

渡辺 朗

#### 編 集 後 記

昨年は「経営学史学会ニュース No.1」を発行しましたが、本号から「経営学史学会通信」と改めて発行することにしました。題字は、本学会顧問の山本安次郎博士の揮毫によるものです。山本先生にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

本通信へのご意見等、何なりとお寄せ願います。

(小笠原英司記)

発行所 経 営 学 史 学 会

事務局 〒101 東京都千代田区神田駿河台1-1  
明治大学研究棟639号室(共同研究室)

TEL 03-3296-2081

FAX 03-3296-2350

---